

平成16年度 プロジェクト研究評価報告（毎年度評価）

プロジェクト研究課題名	ライフスタイルの変化に対応した農山漁村地域の再生方策に関する研究
研究実施期間	平成15年度～17年度 平成16年度予算額：14,947千円
プロジェクト研究の概要	都市と農山漁村の交流を通じて消費者・国民の多様な期待に応えうる農山漁村地域の再生を図る観点から、多様なライフスタイルの形成や農山漁村への参入等を一層促進していくための条件整備のあり方、地域社会への影響・効果を解明する。
<p>評価結果</p> <p>評価会議名及び開催日 農林水産政策研究所 評価委員会 平成17年2月22日</p> <p>評価委員名 小川全夫 (九州大学大学院教授) 杉岡直人 (北星学園大学教授) 守友裕一 (宇都宮大学教授)</p> <p>評価基準 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い (効率性のみ A：妥当 B：概ね妥当 C：見直しが必要 D：妥当でない)</p> <p>総合評価基準 1. 順調に進行しており、 問題はない 2. ほぼ順調であるが、 改善の余地がある 3. 計画等を変更する必 要がある 4. 中止すべきである</p>	<p>【課題1】農山漁村地域における多様なライフスタイルの形成と地域再生のための条件整備方策の解明</p> <p>【評価項目ごとの評価】 ( )は3名の評価委員の投票数を示す。</p> <p>&lt;必要性&gt; 政策の企画・立案への貢献 A評価(3) 社会的ニーズへの対応 A評価(2)、B評価(1)</p> <p>&lt;効率性&gt; 研究計画の妥当性 B評価(3) 研究資源・実施体制の妥当性 B評価(3)</p> <p>&lt;有効性&gt; 研究目標の達成度・達成可能性 A評価(1)、B評価(2) 研究成果の実績 A評価(1)、B評価(2)</p> <p>【総合評価】 順調に進行しており、問題はない (1) ほぼ順調であるが、改善の余地がある(2)</p> <p>【評価委員からの主な意見】 新しい農村構築に農村住民と都市からの有志が関わることのできる道筋を明らかにすること。 地方研究機関との連携、一般誌等への投稿を図ること。 地域再生のマネジメントや組織運営についての課題を明らかにすること。 個々の研究の全体的な統一を図るとともに、新たなライフスタイルを国民に普及させる手だてに留意して分析すること。</p> <p>【課題2】農山漁村地域再生のための多様なライフスタイルの形成条件の国際比較研究</p> <p>【評価項目ごとの評価】</p> <p>&lt;必要性&gt; 政策の企画・立案への貢献 A評価(3) 社会的ニーズへの対応 A評価(3)</p> <p>&lt;効率性&gt; 研究計画の妥当性 A評価(1)、B評価(2) 研究資源・実施体制の妥当性 A評価(1)、B評価(2)</p> <p>&lt;有効性&gt; 研究目標の達成度・達成可能性 A評価(1)、B評価(2) 研究成果の実績 A評価(1)、B評価(2)</p>

	<p><b>【総合評価】</b>  順調に進行しており、問題はない（１）  ほぼ順調であるが、改善の余地がある（２）</p> <p><b>【評価委員からの意見】</b>  海外の研究機関と連携してアジア（韓国など）の取組を研究する必要がある。  アセスメントからプランニングと評価へという手法や、農業者以外のアクターの農村事業に対する支援方策など、日本農政への示唆を明らかにすること。  農村地域への人口移動の可能性と限界、及び国際的視点から新規就農プログラムを明らかにすること。  LEADERのボトムアップ方式、内発性、革新性の重視により住民の capacity buildingが目指されている点に留意して分析すること。</p>
<p>今後の対応方針</p>	<p><b>【課題１】</b>  都市から農村への参入を定住から交流まで広範な形態で捉え、体系的な取りまとめを行う。  国民全体から地域の現場まで、各レベルに実践的な示唆を与える成果を公表する。</p> <p><b>【課題２】</b>  アジアの農村開発問題については、海外の研究機関との交流により、情報の分析を行う。  わが国の各地域で展開している農村再生方策の新たな方式と比較対照しながら、国際研究を推進する。</p>